

HARIU-WAX (GREA

KLISTER.....(crystal snow) (wat ot dr
KLISTER WAX
MEDIUM..... (wetsnow cloggingsn
MIX..... (dry new sn
UNIVERSAL..... (model sohm gr
LEATHER-OIL (wax-cleaning or we
JUMP WAX.....



シンポジウム

スキー文化を考えるー山スキー・山小屋を楽しむー

北海道スキー術伝来1000年を契機に、
スキーの原点である山スキーやスキーツアー、
歩くスキーの面白さを再認識するとともに、
今日におけるあり方を考え、
あわせて山小屋のルネッサンスを図り、
スキー文化を改めて考えます。

●講演者

芳賀孝郎 (元芳賀スキー製作所社長、元日本山岳協会会長)

谷口雅春 (フリーライター)

渡辺興亜 (元国立極地研究所長、北大山岳部OB)

大内倫文 (北大フンゲルOB)

石川裕司 (山岳ガイド、北海学園大山岳部OB)

宮下岳夫 (株)アルパインガイドノマド

新谷暁生 (セコ雪崩調査所所長、酪農学園大学山岳部OB)

大西人史 (二段山クラブ代表)

2012年

10月14日(日) 午後1時~5時

北海道大学 人文・社会科学総合研究棟 1階 W103

(北区北10条西7丁目、総合博物館の向かい側)

主催/北大山とスキーの会、北大山スキー部 協賛/秀岳荘

●終了後懇親会を予定。
6時~8時、百年記念会館あるいは
エンレイソウ

問い合わせ先:
北海道大学総合博物館資料部 在田一則
電話 011-706-2724
E-mail: arita@museum.hokudai.ac.jp



スキー文化を考える —山スキー・山小屋を楽しむ—

GET SUPERFINE SKEES
AND MAKE AN
EXCELLENT
RECORD!



具用其ト一キスル十秀優

梅 山スキー・山小屋を
運 動 具 店

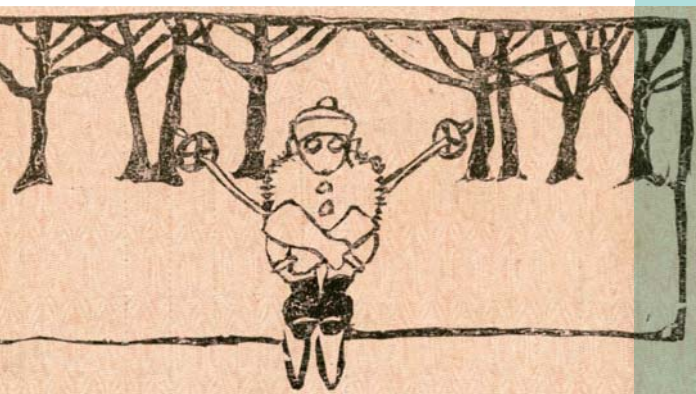
本年(2012年)は、レルヒ中佐が北海道にスキー術を伝えてから、また北海道大学スキー部創立から100年周年にあたります。

北大スキー部は、我が国におけるスキーの揺籃期において、スキー技術の向上とスキー競技の発展に重要な役割を果たすとともに、札幌周辺におけるスキーツアーコースの開拓や山小屋の建設をつうじて、健全なる冬のスポーツとしてのスキーとスキー文化の普及に尽力してきました。

スキーは本来北国において雪の山野を跋涉する道具として誕生しました。その後冬のスポーツとして人々に楽しまれ、今日では、競技スキー・ゲレンデスキー・山スキー・歩くスキーとそれぞれの好みに応じて多様化しています。しかし、大自然を舞台とするスキーは単なるスポーツとしては捉えきれず、自然と人が織りなす北国の文化のひとつと言えます。

スキーリフトなどの施設を備えた大規模スキー場の発達とともに、山野でスキーを通じて雪や自然と戯れるというスキーの原点が薄らいできました。しかし、一方では近年自然と同化する山スキーやスキーツアーの面白さが見直され、山スキーの愛好家が増えつつあります。

本シンポジウムでは、北海道スキー術伝来100年を契機に、スキーの本質である大自然のなかでの山スキーやスキーツアー、歩くスキーの面白さを再認識するとともに、今日におけるあり方を考え、あわせて山小屋のルネッサンスを図り、スキー文化を改めて考えましょう。



北海道大学総合博物館で下記の「北大スキー部100年・山スキー部50年」記念企画展示が開催中

北海道総合博物館企画展示「日本におけるスキーと北大スキー部の100年」

北海道大学スキー部は1912(大正元)年に創立された北大において最も伝統のある学生クラブの一つであり、その100年の歩みは日本におけるスキーの誕生とその後の発展の歴史とも言えます。展示では、我が国におけるスキー発祥地の一つである札幌(北大)においてスキーが誕生した経緯、北海道でのスキー登山および日本におけるスキー競技の始まりと発展において北大スキー部が果たした役割などを紹介します。また、北大スキー部を中心とした人びとによって、北国のスポーツとしてのスキーを普及させることを目的に我が国で最初のスイス式山小屋が札幌近郊に建てられた歴史を紹介します。

開催時期:2012年10月10日(水)~12月16日(日)
開催場所:北海道大学総合博物館1階「知の統合」コーナー



旧冷水小屋(スキー北海道、札幌鉄道局、1938より)



手稲パラダイスヒュッテ(画:和田 晴)

